

## 就職活動に向けた職場見学

～青森公立大学学生が職場訪問～

青森公立大学の3年生約20人は10月11日、企業見学の 일환として当JAを訪問しました。

同大学では、将来の就職先を決める参考にしようと、様々な企業を見学しています。

JAの目的や事業内容、取り組みといった概要について職員が説明し、学生は熱心に聞き、積極的に質問していました。また、同大学の卒業生の常盤基幹グリーンセンターの菅野徳嗣さんと山形支店の野上彩芽さんが担当業務の説明やJAに勤めて感じたことを発表しました。その後、施設見学を行い平賀基幹支店、移動貯金店舗「みらい号」、産直センターひらかを見学しました。



移動貯金店舗を見学する学生

## 9JAの代表者が意見交換

～第11回JAみらいサミット～

第11回JAみらいサミットが10月10日、千葉県で開かれ「みらい」名を冠名とした9JAが集結しました。各JAから役員約40人が出席し、今年新たにJA山梨みらいが加わりました。

サミットでは「自己改革の取り組み並びに実践を支える経営基盤強化」をテーマに討論し、農業者の所得増大や農業生産の拡大に向けた各JAの取り組みを紹介。活発な意見交換を行いました。また、サミット宣言では、持続可能な農業や豊かで暮らしやすい地域社会を実現していくため、協同組合として組合員や地域住民の「声」を聴き、事業活動に取り組むなどを採択しました。



9JAの代表者

## 栽培技術と品質の向上へ

～良食味米競技会開催～

ときわ良質米生産部会（三浦浩二部会長）は10月29日、常盤基幹支店で良食味米競技会を開きました。部会員11人が、令和元年産米の審査をしました。

「青天の霹靂」「つがるロマン」「まっしぐら」などの玄米サンプル35点が出展され、穀粒判別器や食味計による分析、目視による品位を採点方式で審査しました。三浦部会長は「審査することで、栽培意識の向上につながる。生産者同士が切磋琢磨し、おいしい米作り」に努めていく」と話しました。

結果は、2年1月の同部会通常総会で上位20人を公表します。



審査を行う部会員

## 青森りんごの魅力を香港へ発信

～香港マスメディアが施設を取材～

青森県りんご対策協議会は県産りんごの消費拡大と認知度の向上を目的とした「青森りんご産地招待事業」を実施しており、海外のマスメディアを青森県に招いています。

10月16日、香港のマスメディアが黒石中央りんごセンターを訪れ、新聞記者ら4人が施設を見学しました。同センターの鳴海貴嗣統括から施設の概要の説明を受け、選果、箱詰め作業や冷蔵庫などの見学をしました。見学後はりんごを試食し、県産りんごの食味を確認しました。



香港のマスメディアに説明する職員（左）